

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

「就業力を育てる3ステップシステム」

プロジェクト

<http://3step.hosei.ac.jp/>

文部科学省『大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)』採択プロジェクト

講義を終えて・・・(近況報告)

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)



今回は、大学1年生を対象とした科目(キャリアデザイン入門)における取り組みを紹介します。この科目は、学生が本学で勉強を始めるにあたり、改めて自分自身を見つめ直し、自己の適性や能力を知る手掛かりを得るとともに、将来を見据えた学生生活をデザインしていくことを目的としています。将来を考えるにあたり、講義内で実施しているのが、キャリア研究(社会人を対象とし、その人の人生の転機に着目しながら、これまでの生き方を分析する)という課題です。

① 意図と目的を持ったコミュニケーションのとり方を学ぶ

学生は、自分の目の前にいる人にどういった質問をすればいいのか、自分が知りたいと思っていることを聞き出すには、何をどうたずねていけばいいのか、悩みながら調査を進めていきます。的確に質問をしないと、自分がほしい情報は得られません。質問の仕方が悪いと、出てくる情報の質も下がります。そのため、学生たちは質問をする際に、意図や目的、聞き方を考えるようになっています。

② コミュニケーションに対する理解が深まる

インタビューによる調査を通じて、学生はビジネスマナーの必要性を実感するとともに、その人との間に信頼関係を築くことの大切さを学んでいます。「話してあげよう」と思ってもらえないと、大事な話を聴くことはできません。その一方で、学生は「語り」がもつ曖昧さや不確実性にも気づくようになっています。その結果、真摯な態度で話をうかがいながらも、話し手の語りを客観的に、あるいは批判的に聞くことを意識するようになっています。

【学生の声】

父は、私が小さい頃から何度も仕事を変えていて、私は父みたいな生き方だけはしたくないと思っていました。それでも、今回の課題の調査対象者を誰にしようか考えてみたところ、じゃあ、父が仕事を何度も変える理由って何だろうって思ったんです。それで、父を調査対象者にしました。

話を聞いていくと、父はもともと外国航路の船乗りをしていました。そして、結婚して子どもができます。その子どもが幼稚園ぐらいになったとき、父に転機が訪れます。父は、一旦外国航路の船にのるとなかなか家に帰ってくることができません。出航の度に、子どもに「家にいて」と泣かれたそうです。それがどうしても辛く、父は仕事を辞めることを決意したと言います。しかし、外国航路の船乗りだった父の転職は難しく、なかなか安定した仕事に就くことができなかったと言います。それでも、子どもがこうして大学生まで立派に育ってくれたことが誇りだと語っていました。

この研究を通して、父の人生をかえたのが自分だったと初めて知りました。そして、父に感謝しなければならないのに、憎んでいた自分が恥ずかしくなりました。それと同時に、仕事をして家族を支えるということがいかに大変なのかも少し理解できた気がします。今は、まだ将来の目標は決まっていませんが、せつかく、こうして東京の大学に入学することができたのだから、遊んでばかりではなくて、勉強面もしっかり頑張っていこうと思います。

略歴

法政大学大学院経営学研究科
キャリアデザイン学専攻(修士)

修了後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。

2011年3月 同博士課程中退。

e-mail:

shohji.shirai.36@hosei.ac.jp

研究室は新見附校舎2F



略歴 84年名古屋大学大学院卒。
京都大学博士(経済学)。84～89年
京都大学経済研究所助手、90～97
年滋賀大学経済学部助教授・教授。
97年～03年法政大学経営学部教
授、04年～IM研究科教授。

ひらめきは論理思考から生まれる!?

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

大学教育の核心は、論理的思考能力を身につけさせることだと思います。物事を一つ一つ順序立てて考えていく力は、どんな仕事に就く場合でも重要です。

世の中では、斬新な発想やイノベーションが求められています。誰も考えついていないような財やサービスを生み出し、それを広く社会に認知させていくことがイノベーションです。

イノベーションは、日常の努力の中で起こります。どうしても解けない課題を辛抱強く考えていると、ある日突然、解が天から降りてきます。そう、ひらめきの瞬間です。

論理的に考え抜き、これ以上はムリだ！というギリギリまで自分を追い詰めたとき、発想が飛躍して新しい考えが出てきます。論理の積み重ねがあるからこそ、斬新さが生まれるのです。突き詰めて考えていないところにイノベーションは起こらないと言ってもいいでしょう。

自分の頭で考えるのはたいへんです。でも、そのたいへんさから逃げていると発想力は育ちません。考え抜いてひらめきを得たときの快感を学生たちに体験させたいですね。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。
70～06年伊藤忠商事(株)勤務、06～11
年帝京大学と法政大学職員。
11年～法政大学教員

就業力が読み取られている！

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

就業力養成ゼミに参加した3年生が連日相談に来ている。就活に取組み、良い結果を出すには何か特別なテクニックやスキルが必要との誤解を感じる。就業力の各要素を試されているのが就活と答える。履歴書やエントリーシート作成には文書作成力、読み手の立場に立って結論から書く。自己PRや志望動機を書くには情報収集・分析・発信力が求められる。面接にどう臨み回答するかには状況判断・行動力が欠かせない。各人が持つ経験は千差万別、それに取組んだ時の思考回路と行動パターンすなわち経過で比較されている。結果は面接で聞かれた時に誇れば良いと教えている。



略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事
を経て人事コンサルタントとして独立。
キャリアカウンセラー資格取得後は多く
の大学でキャリア論の講師を務める。

ビデオ教材が仕上がりました。

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

就業力理解のためのビデオ教材の1つがほぼ出来上がり、先日の法政大学シンポジウムでご報告できました。この教材は、座学ではなかなか理解できない仕事の現場を、実際の企業でのビジネスケースを元にシナリオを作成し、撮影、編集と進めてきたものです。この教材から、大学の授業で教えている情報収集力やコミュニケーション力の重要性を感じて貰えればと思います。

この教材は、授業の一コマ(90分)で使うことを前提に編集しております。現在、教員指導用のレジュメを作成中で、学内外の教職員の皆様が授業や就職セミナーで自由にご利用できるようにする予定です。ご関心のある方は、どうぞお問い合わせ下さい。

◆ オリジナルビデオ教材が完成しました。

鈴木講師が上記記事にてご報告しましたが、法政大学「就業力GP」では、働く場面を実感させるオリジナル教材ビデオを作成いたしました。主人公は旅行代理店に勤める入社1年目の新入社員(営業職)という設定で、2月23日の教員向けフォーラムではダイジェスト版が放映され、鈴木講師が授業内での利用方法の説明を行いました。ホームページにも掲載を予定しておりますのでぜひご覧ください。なお、第2弾は「製造業界編」で、まもなく撮影に入ります。こちらもご期待ください。

◆ 就業力育成シンポジウム「大学の学びは社会で生きる力になる」を実施します。

新入生の保護者の方へ向けたシンポジウムを開催いたします。白井講師による模擬授業や企業からゲストをお迎えしてパネルディスカッション等を行います。日時: 2012年3月25日 13:30～16:30 会場: 法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 6F 薩埵ホール

◆ 編集後記: 入試が終了しました。実力をいかに発揮してもらうために学校は、受験生のために実に様々な配慮をします。

センター試験がリスニングを導入した2007年から、この傾向は顕著になりました。多少、入試で「過保護」な扱いをしたからと言って子どもたちが即「ひ弱になる」とは思いませんが、自分の運・不運を呑みこめなくなっているように感じます。「私だって、ああしてもらってれば…」 「もっと本気が出せれば…」。大学入試のわずか3年後には就職活動で強靱な精神力を求められることを考えると、そのギャップに違和感を覚えます。《元入試課長の 細田 》

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる**3ステップシステム**
文部科学省「大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)」採択プロジェクト